

令和元年度 学校評価報告書

宮城県立支援学校女川高等学園

1 教育目標

一人一人の人格と個性を尊重しながら，生徒の特性に応じた適切な職業教育を行い，自己の持つ能力や可能性を伸ばし，社会的・職業的に自立できる心身ともに健康で，誰からも愛される生徒を育成する。

<今年度の努力事項>

- (1) 生徒一人一人の自己選択や意思決定を大切にし，生徒のキャリア形成に視点をあてた学習活動の充実を図る。
[ハードスキルの獲得]
- (2) 生徒自身の願いや思いを大切にし，主体を本人に置いた進路指導や生徒指導に努める。
[ソフトスキルの強化]
- (3) 地域の良さを理解し，地域に貢献できる生徒を育成する。
- (4) 特別支援学校のセンター的機能を充実させ，特別支援教育の理解啓発に努める。
- (5) 地域と共に学ぶ防災教育の充実に努め，生徒・保護者にとって安全・安心な教育環境を整える。

2 全体分析について

全体分析は，以下の基準でABC評価し分析を行いました。

評価	基準
A評価	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が80%以上
B評価	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が60%以上～80%未満
C評価	「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が60%未満

【分析】

評価者	項目数	A評価	B評価	C評価
生徒	32	10	22	0
保護者	36	36	0	0
職員	38	37	1	0

【考察】

生徒，保護者，職員の三者において，全体的な評価としては肯定的な結果が得られました。評価者別に見ると保護者，職員はA評価が多かったものの，生徒はB評価が多く，さらに60%台の項目が5項目ありました。このことから，指導する側と指導を受ける側の捉えや受け止め方が異なっている状況が考えられました。指導は，生徒に伝わってこそ意味があります。指導者側の指導と対応の意図が，生徒に受け止められ，理解されているかを再考して今後は対応していくことを教職員で確認しました。

3 質的分析について

全体分析結果60%以上が肯定的評価という観点から，質的分析では，「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の割合に着目し，積極的肯定評価「そう思う」を以下の基準とし質的分析を行いました。

評価	基準	今後の対応
積極的肯定	「そう思う」40%以上	見直し改善を継続
消極的肯定	「そう思う」30%以上～40%未満	課題として検討・改善が必要
要改善	「そう思う」30%未満	重要課題として早急に改善が必要

【分析】

評価者	項目数	積極的肯定評価	消極的肯定評価	要改善評価
生徒	32	16	12	4
保護者	36	34	2	0
職員	38	28	7	3

【考察】

生徒、保護者、職員の三者が、消極的肯定、要改善と評価した項目は、「学校は、福祉サービスや相談事業所など卒業後の生活に必要な情報を提供している」「学校は、いじめの未然防止や早期対応のため、いじめアンケートやいじめ相談などきめ細かな対応を行っている」の二項目が挙げられました。

また、生徒、職員の二者が、消極的肯定、要改善と評価した項目は、「学校は、生徒の特性による学習や生活上の困難を改善するための指導を行っている」「学校は、生徒会活動や部活動などで生徒が主体的に活動できるよう取り組んでいる」が挙げられました。このことから、教職員の生徒理解や特別支援教育についての専門性の向上への対応、教材研究のための時間の確保など、改善のための具体的な策を講じることが必要であることが明らかとなりました。

また「PTA活動は、学校職員や保護者同士の交流の機会となっている」についても、本校の実情を踏まえながら、学校職員、保護者同士が交流を深められる活動の工夫や組織について見直しが必要な時期にあると考えられました。

4 改善策

(1) 「学校は、福祉サービスや相談事業所など卒業後の生活に必要な情報を提供している」について

- ① 個別の教育支援計画を活用し、三者面談の機会に担任が本人・保護者のニーズを聞き取ります。担任と支援部で情報を共有し、必要な情報を提供していきます。
- ② 教職員を対象とした進路、福祉に関する研修等を行い、専門性の向上に努めます。

(2) 「学校は、いじめの未然防止や早期対応のため、いじめアンケートやいじめ相談などきめ細かな対応を行っている」について

- ① アンケート実施による把握に加え、問題を抱える生徒への面談を迅速に行うこと、気軽に相談できる雰囲気と体制を整えていきます。
- ② 生徒指導部や教育相談を担当する保健給食部、学年部等の連携・協力の強化を図ります。
- ③ 生徒からの相談を共感的に受け止める初期対応を大切にすることを教職員で共通理解し、その後の相談につなげる対応していくことの確認を行いました。

(3) 「学校は、生徒の特性による学習や生活上の困難を改善するための指導を行っている」について

- ① 今年度から、自立活動の時間の指導を行っています。研究部を中心に、学校と寄宿舎が連携・協力し校内研究に取り組んでいるところです。今年度は、効果的な学習を行うための校内のシステム作りを行いました。次年度は、授業づくりに重点を置き、研究実践を行っていきます。校内研究の取組を通して、生徒個々の課題改善に向けた学習の充実に努めていきます。

(4) 「学校は、生徒会活動や部活動などで生徒が主体的に活動できるよう取り組んでいる」について

- ① 生徒の自由記述から、特に部活動の充実についての意見が多く挙げられました。本校の部活動の意味、位置づけを明確にして今後の部活動の在り方を検討していく必要があると考えました。次年度に、検討組織を設けて部活動の在り方について検討していきます。

(5) 「PTA活動は、学校職員や保護者同士の交流の機会となっている」について

- ① 学区が全区一区であることから、PTA会員の参集の機会が限られ、十分な交流を図ることが難しい現状にあります。PTAは、生徒の健全育成と学校生活の充実に支える重要な役割があります。このことから、今後はPTA活動の活性化と充実につながるようPTA役員会等において、現状を踏まえたPTA組織や活動の見直しを検討していきます。

自由記述について

下記の以外にたくさんの記述をいただきました。記述いただいた内容については、今後の参考にさせていただきます。

生徒	
記述内容	回答
<p><学校生活></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドにライトがほしい。 ・体育館にクーラーがほしい。 ・体育館の廊下が寒いので、仕切りを作ってほしい。 ・冷水機を増やしてほしい。 ・ロッカーに仕切りを作ってもらいたい。 ・エアコンを付けてほしい。 ・1年の水道水の味が悪い。出も悪い。 ・部活動に関する意見 時間を増やしてほしい 練習試合をしてほしい やりたくない雰囲気になっている 1年ごとに換えられるようにしてほしい <p><寄宿舍生活></p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯機と乾燥機を増やしてほしい。靴を洗う洗濯機が欲しい。 ・洗濯物を干すスペースを増やしてほしい。 ・お風呂場にフェスタオルを干す場所がほしい。 ・ベッドに手すりを付けてほしい。 *その他、物理的な〇〇してほしいとの意見について *日課、人間関係に関する□□してほしいとの意見について 	<ul style="list-style-type: none"> ➢宮城県では、定時制高校のみグラウンドにライトの設置が許可されていますので、本校では設置できません。 ➢運動のための施設なので、設置の考えはありません。 ➢建築基準や消防法により仕切りは設置できません。 ➢現在設置している1台を工夫して使用してください。 ➢自分で工夫をしてみてください。 ➢校舎については、現在設置の工事中です。 ➢確認はしますが、少し流してから飲んでください。 ➢来年度、先生方の検討組織を設けて、部活動の意味や在り方を考え、検討していきます。 <ul style="list-style-type: none"> ➢設置場所の関係から増やすことはできませんので、工夫して使ってください。靴用の洗濯機は検討しません。 ➢場所の関係でこれ以上増やせません。工夫して使ってください。 ➢私物の管理になりますので、設置の検討はしません。 ➢状況を確認します。 ➢生徒の皆さんの個々の要求度に差がある点も考え、改善・補充の優先度を係で検討、調整します。 ➢指導者側で指導効果を考えた上で、指導者が調整するもの、生徒間で検討して決めるものを整理します。できる限り生徒の皆さんの個々の思いが生活に反映され『主体的な規律の維持』につながるような改善案を検討していきます。
保護者	
記述内容	回答
<ul style="list-style-type: none"> ・三者面談の日程が、もう少し長い期間だとよいです。 ・洗濯物を干す場所が少ないように感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> ➢他の行事等も踏まえながら、次年度の年間行事予定を検討していきます。どうしても御都合がつかない場合は、担任へご相談ください。 ➢場所の関係でこれ以上増やせない状況であることの御理解をお願いします。